

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【 福島県 】

学校名【 福島県立聴覚支援学校 】

1 実践テーマ	①・II・III・IV ⑤（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	中学部 通常の教育課程の生徒 22名 高等部 全学年 29名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名( 保健体育 ) ② 行事名( ) ③ その他( ) (2) 地域における活動 ① イベント名( ) ② その他( )
4 目標 (ねらい)	1 福島県ゆかりの選手を調べながら、オリンピック、パラリンピックに関心をもつことができる。 2 オリンピック・パラリンピックについて学ぶことによって、生徒が日常生活や部活動などに活かせるようにする。
5 取組内容	1 オリンピック・パラリンピックについて【中学部・高等部】 (1) オリンピック・パラリンピックが1年延期になったことについて考える(9月) ・自分が目標とした受験や就職活動などが1年延期になってしまったとき、どのような心情になるか、選手の気持ちを想像した。 ・モチベーションを維持することが難しいと考え、選手に元気を届けるために、自分たちにできることを考えた。 ・復興オリンピックと称されることから福島県出身及び福島県ゆかりの選手へエールを送ることにした。 (2) 福島県出身及び福島県ゆかりの選手を調べる。 ・パソコンやタブレットを使用し、東京オリンピック・パラリンピック出場内定となっている福島県出身及び福島県ゆかりの選手を調べた。 ・調べた選手の中からエールを送りたい選手と理由を発表し、決定した。

・具体的なエールの送り方を検討し、国旗に励ましの寄せ書きを書いて送ることに決定した。

### (3) 寄せ書きの作成、送付

・中学部は福島県出身、陸上競技のパラリンピック内定選手の佐々木真菜選手、柔道競技のパラリンピック内定選手の半谷静香選手への寄せ書きを作成し、送付した。

・高等部は福島県出身、カヌー競技オリンピック内定選手の宮田悠佑選手、福島県の中学校、高等学校を卒業したバドミントン競技オリンピック内定選手の桃田賢斗選手への寄せ書きを作成し、送付した。





## 6 主な成果

- 調べ学習の結果、現在東京オリンピック、パラリンピック出場が内定している選手や出場に向け現在頑張っている福島県出身及びゆかりのある選手の存在を知り、オリンピック・パラリンピックへの興味関心が高まった。
- 自らが応援する立場になることで、目標に向け頑張っている人の周囲には、応援したり、支えたりしてくれる人の存在に気付くことができ、自分たちの周囲にも支えてくれる人たちがいることを再認識することができた。
- エールを送った選手からお礼の動画や写真が届き、自分たちの活動が選手へ届いたうれしさを感じるとともに、応援したいという気持ちが強くなった。

<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>昨年度はオリンピック、パラリンピック、デフリンピックの歴史について調べたので、今年度は選手と直接交流できる計画を立てた。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で実施も難しいだろうという判断から、選手との交流の仕方も模索した。直接の交流はできなかったが、動画や写真を通して交流が持てたことはよかった。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響から、休校などもあり1年を通した活動の計画に見通しが持てず、余裕を持った取り組みができなかったので今年度の経験を次年度に活かしたい。また、リモートなどを使って交流の仕方も工夫していきたい。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>今年度交流を持てた選手とリモートなどを使って交流を継続しながら、生徒がオリンピック、パラリンピック本番を楽しめるよう計画を立てたい。</p>